

令和3年度第1回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 : 令和3年6月2日(水) 14時15分～

場 所 : リブラ若狭 2階 講堂

1 開会

2 あいさつ

- ・福井県交通まちづくり課 西野課長

3 小浜線の列車、ダイヤの見直しについて

- ・JR西より、概要について説明

JR西

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、鉄道利用者は大きく減少している。一番大きく落ち込んでいるのは旅行やビジネスを目的とした中長距離の利用者で、在来線特急の落ち込みは2019年度実績で対前年比32%減少。今年度に入っても厳しい状況は続いており、コロナ前の2割台で推移している。北陸本線の特急列車は一部の列車で運休を継続している。利用が少なく低調なものは小浜線も例外ではなく、正確な数字はまだ算出できていないが、2割程度落ち込むと予想している。会社経営の点では非常に厳しい状況で、昨年度、連結決算で2千億円の赤字を計上している。この状態が続くのではなく、ワクチン接種等により回復基調に向かうことを期待しているが、鉄道利用の観点で申し上げますと、コロナ前の水準に戻ることは難しいと考えている。前回も申し上げたとおり、長期債務も昨年度1年間で約6千億円増加している状況。より少ない収入で債務返済をしていかないと事業継続が難しい。
- ・こうした中で列車ダイヤの見直しについては、列車一本一本の利用状況をみながら、運行本数との一定の乖離があるものについて、見直しをさせていただきたい。早期に構造改革を進めるため、小浜線についても通常3月に行うダイヤ改正を10月に前倒して実施したい考えである。新聞報道等にあった本数については、あくまで検討対象というものであり、すべて削減するわけではない。詳細については7月の公表を目指して進めていきたい。

川本会長

- ・沿線自治体の小浜市から説明をお願いしたい。

小浜市

- ・今回の見直しについて、沿線自治体が求めていることは要望書のとおりである。JRの厳しい状況は致し方なく合理的な判断であり、尊重しなければならないものだと承知している。

- ・3年後の北陸新幹線の敦賀開業を見据え、嶺南地域公共交通網形成計画を策定したところであり、今後、やむを得ず減便となった場合も、敦賀開業時には便数を元に戻してほしい。そのためには、減便となった場合も、敦賀開業までは復活を見据えて車両をそのまま維持してほしいと思っている。
- ・今後、沿線自治体は利用促進に真剣に取り組んでいきたいと考えている。
- ・減便とあわせて、簡易委託販売の契約解除をするとの話も聞いており、沿線住民が一番困ると危惧している。利用促進策を検討する上で可能性を教えてくださいが、例えば、簡易委託販売が解除された場合、無人駅となるが、きっぷ購入の際に高齢者などスマホやインターネットを利用できない人もいるため、車内できっぷ販売ができないか。委託乗務員を自治体で用意して、JRのハンディ端末を利用し、ICOCAや電子マネー、現金できっぷを購入できるように、また、車内に観光乗り継ぎのアテンダントを乗務させることはできないか。
- ・サービスを維持向上させるため、車内にWi-Fiを導入できないか。
- ・今後の開業を見据え、小浜線、バス、タクシーを利用決済できるエリア内フリーきっぷを発行するような企画は可能か。

J R 西

- ・苦しい状況を御理解いただき感謝する。できる限り、利便性や地域の方の声を反映させながらよりよい形を目指したい。
- ・小浜線は約20年前から列車本数を維持させていただいている。前回のダイヤ改正では、朝の通学時間帯に本数を増やしているが、それにもかかわらず、利用者は3割以上減っている。
- ・新幹線開業前に本当にこれが正しいのかという意見をいただいたが、企業存続のため、減便はあくまで利用状況と輸送力の差が大きいものから行うもので、輸送力の確保については今後の状況に応じて柔軟に対応する。
- ・車両の話については詳細なダイヤも決まっておらず、車両をどうするとは現時点で決まっていない。車両には行政からの補助も入っていると認識しており、そうした御意見をいただいたことを承る。
- ・利用促進の取組については非常にありがたい。沿線自治体の皆様と一緒に、利用促進・機運醸成に取り組みたい。
- ・駅体制の見直しについては構造改革の一環として取り組まなければならない状況。利便性を確保するアイデアとして、車内に乗り込んでのきっぷ販売との意見をいただいたが、弊社の販売端末を操作いただくのは技術的課題や、教育、セキュリティの問題もあり、直ちに実現できるものではない。
- ・Wi-Fiの導入については、新幹線や特急列車へはインバウンド客の利用を見据えて導入を進めているが、普通列車、小浜線にまで整備することは難しい。
- ・地域の皆様と一体となって何かできないかという提起については、引き続き協議をさせていただきたい。
- ・エリア内フリーきっぷについては、WESTERアプリの運用を始めており、様々なMa a

Sの取組を進めている。瀬戸内の観光型M a a S「setowa」では、サブスクリプションの観点を盛り込んだサービスを提供している。嶺南地域においても、観光誘客を目的にM a a S導入について勉強していくことは十分可能。

小浜市

- ・setowaについては把握しており、できれば嶺南地域で実証実験をしていただきたい。
- ・ダイヤ見直しについては、要望時点では検討後7月頃に公表したいと聞いているが、沿線自治体にはいつどのタイミングでお知らせいただけるのか。

J R西

- ・発表は通常3か月前に行っており、秋に改正するとなると7月頃には公表する予定である。一定の相談、説明をさせていただく予定ではあるが、時期については何とも言えない。

小浜市

- ・後日、各自治体へ個別に話があるものと思っているのでよろしくお願ひしたい。

川本会長

- ・他に何かあれば。なければ県からお願ひしたい。

福井県交通まちづくり課

- ・新幹線開業を見据えて策定したこの計画は、小浜線を軸として盛り上げていくため、駅とのアクセスや手段の充実など利便性向上を進めているところである。小浜市から提案もあり、沿線市町の思いを話していただいた。ぜひ、沿線市町の思いを汲んでいただき、物事を進めていただきたい。
- ・今回のダイヤの見直しについては、福井県内はもとより、地域のローカル線をどう維持していくのかという全国共通の課題であると考えている。国レベルの話でもあり、県としては、ローカル線を支える制度面も含め、国への要望もしていきたいと考えている。

J R西

- ・利用者に迷惑をかけないように全てに答えることは難しいが、できるだけ対応し、考えていきたい。引き続きよろしくお願ひしたい。
- ・国への要望の件はありがたく思う。我々としては現行の制度の中でできることを考えていかなければならない。

川本会長

- ・利便性やコロナのことも考えて、ベストなものになるようお互い協力、協働して進めていただきたい。
- ・小浜線は嶺南地域の軸となっており、まちづくりの面でも美浜町の道の駅整備や高浜町

のグリーンスローモビリティの拠点として駅とつなぐなど、まちづくりとの連動もある。前向きに考えることが非常に重要であり、こうした場で協議、理解いただきながら取り組んでいただきたい。

4 報告

- (1) 福井県嶺南地域公共交通活性化協議会規約および委員の変更について
- ・事務局より資料2説明

5 議事

- (1) 令和2年度事業報告および決算報告について
- ・事務局より資料3説明
 - ・監事より会計報告
 - ・異議なし、原案のとおり承認

- (2) 令和3年度事業計画案および予算案について
- ・事務局より資料4説明
 - ・異議なし、原案のとおり承認

- (3) 網形成計画の各事業の進捗状況について
- ・事務局より資料5説明
 - ・関連事業について市町より資料説明

川本会長

- ・計画に関連する事業についていくつか説明いただきたい。

美浜町

- ・三方五湖実証バスは、県、若狭町、美浜町などで構成する三方五湖エリア全体協議会で実施する事業。三方五湖エリアにおいて小浜線の二次交通としてバスの実証運行を行う。
- ・時期は9月～11月のうち連続する2か月、運行日は期間内の土日祝日で計21日間を予定。
- ・経路は2ルートあり、一つは敦賀駅を出発、三方五湖を周遊し、敦賀駅に戻るもので1日3便程度運行。もう一つは美浜駅を出発、三方五湖を周遊し、美浜駅に戻るもので1日6便を予定。
- ・バス停についてはレインボーライン、縄文パーク、園芸ラボの丘などを予定している。
- ・運賃は乗り合いで定時定路線で運行する。バス停ごとに運賃を設け、乗り放題の乗車券については1日もしくは2日乗り放題定額で考えている。利用者のアンケートにより、今後の利便性向上に活用したい。

若狭町

- ・令和6年春に新幹線が開業すると首都圏から観光客が訪れる。再度リピーターとして訪れていただきたく、観光地の磨き上げを行っているところ。あわせて二次交通の充実が必要と考え、小浜線の運行間隔が首都圏の方にとって少し長く、またコミュニティバスは朝夕を中心とした住民の利便性を考えたダイヤになっているため、三方五湖と熊川宿を周遊できる手段として補完バスの実証実験を行う。敦賀駅からの広域バスと連携して、その乗客と小浜線利用客を美浜駅・三方駅で受けて熊川宿まで、1日3便10日間運行予定。
- ・他に、カーシェア利用促進の仕掛けづくり、町内交通の分析検証により、観光客に満足いただける交通体系を目指す。

高浜町

- ・6/1からグリーンスローモビリティの実証実験を始めている。事業主体としては、観光協会、商工会、シルバー人材センターが新しく一般社団法人を設立し民間主導で、行政は側面支援する形で取り組んでいる。
- ・6月から中心部に2ルート設け、公共施設・スーパーを中心に定時定路線、無料で運行する。7/7には「ウミカラ」がオープンし、6、7月の土日には観光客向け、8月には和田地区で海水浴客向けに実証する。閑散期の実証として、10、11月にそれぞれの地区で行い、ニーズを把握しながら本格運行に向けて実証する。

おおい町

- ・名称は「うみりんスマイル号」とし、公募により決定。4月から実証運行を開始。対象者はどなたでも利用可で、事前に登録が必要。町外の方は観光協会が登録する。運行日は平日の7時30分から17時30分までで、予約は乗車の2週間前から30分前まで。9人乗りワゴン車2台を使う。料金は中学生以上500円、小学生250円、未就学児は無料。70歳以上および障がい者の方は300円。
- ・利用者からのアンケート結果をふまえて、10月からの本格運行につなげたい。
- ・4月末の登録者は298人であり、現在では300人を超えていると思う。乗車人数は140人で、冬場には利用も増えると思う。今後、利用促進のためPRをしていきたい。

川本会長

- ・今年度より実証が始まった事業もある。今後開催されるワーキンググループでの水平展開や、各市町の公共交通会議においては、自前の状況だけでなく嶺南地域を一体と捉え、他の地域の取組みについても情報共有していただけるとありがたい。

(4) 網形成計画の達成状況について

- ・事務局より資料6説明

川本会長

- ・交通事業者の方から、利用状況含め、今後の見通しなどお話をお願いしたい。

福井鉄道

- ・4月に従業員のコロナウイルス感染により、2週間営業所を閉鎖することとなったが、大和交通に代行運行を依頼し、全便運行することができた。感染防止に努めてきたが、食事の際に徹底できておらず、2名が感染し大いに反省している。
- ・今後もコロナ禍による出控えは続いており、利用状況については、昨年度に比べると今年度の数字は増えているが、令和元年度と比べると大きく減少している。今後は貸切バス、高速バスを中心に都市間移動の手段として、オリンピック、高校総体、岐阜のねりんピックなどに向けて、役割を果たしていきたい。

大和交通

- ・名田庄線は人数ベースでは3割減少した。運賃収入は2割落ち込んでいる状況。昨年度よりはいいのかもしれないが、回復は遅く、落ち込みについてはコロナだけでなく過疎化や少子化などの影響もあると思う。
- ・以前もお話ししたが、3年程前に行った名田庄地区アンケートでは、バスがなくなると困る、将来は使いたいとの結果が出ていたが、実際はどうか疑問を感じている。
- ・行政からの補助金で運行しており、その金額が増加しつつあるため引け目を感じているが、支援をいただける間は運行の維持に努めたい。

J R西

- ・厳しい状況は他の事業者の方と同じ。引き続き、利用者の安全安心を目指し、取り組んでいく。

川本会長

- ・他の委員の方からも一言ずついただきたい。

小浜市

- ・利用促進の一環としては観光があると思っている。観光コンテンツの磨き上げをすべきと感じている。
- ・市としては、デマンド交通導入の検討を進めていきたい。各事業の実証実験のデータを参考に提供いただきたいと思っている。

高浜町

- ・グリーンスローモビリティは、休日は観光客向けに運行する。7/7にはウミカラがオープンする。そちらへのルートを確保し、和田地区では海水浴客向けにも実証する。小浜線に乗ってきた方がどういった動きをするのか検証していきたい。

若狭町

- ・新幹線の開業によりいかに観光客に来てもらえるかが重要であり、公共交通の充実は非常に大事だと思っている。各市町の取組みを参考にしながら検討していきたい。

敦賀市

- ・つるがシェアサイクルについては昨年度 9 か所サイクルポートを整備、自転車を 60 台設置しているが、年々拡大していきたいと思っている。
- ・ぐるっとつるが周遊バスについては敦賀市の観光ルートについて検討するだけでなく、開業に向けては、今後、美浜町・若狭町とも連携して魅力的なものを作っていきたいと考えている。

美浜町

- ・美浜駅を中心とした道の駅のにぎわいづくりを進めている。同時に二次交通の検討も進めているところで、各市町の実証を参考にさせていただきたい。
- ・乗る活動についても検討を進めているところである。

おおい町

- ・先日 J R に提出した J R の便数維持、乗車券簡易委託販売の維持の 2 点についてぜひお願いしたい。維持していただくための地元と連携した利用促進活動の実施について、より具体的な内容を検討していきたい。

嶺南広域行政組合

- ・組合では、嶺南快速鉄道基金を活用し、本格的に事業に取り組んでいる。皆様からアイデアをいただきながら事業を進めていきたい。

野村委員

- ・単身で小浜にきており、去年から帰ることができていない。帰るときには小浜線と新幹線を利用している。コロナのため移動をするなということが J R も影響を受けていると感じる。
- ・地元では高齢者は運転免許を返納する動きもあり、移動手段の確保を模索しているところである。

嶺南振興局若狭企画振興室

- ・コロナの影響により公共交通は厳しい状況にあり、県外からの利用は難しいということで、地元の公共交通は地域で共に支えていかなければならないと思っている。
- ・利用促進の政策的なことは行政が知恵を出し合う必要があると思う。一方で地域の方には小浜線を生活の一部として意識してもらうことが必要である。そのために市町等では、草の根的に活動を進めていかなければならないと思う。
- ・広報誌やホームページへの掲載、SNS での発信など、地味かもしれないが一つずつやっ

ていくことも大事だと思う。振興局でも協力していきたい。

福井運輸支局

- ・網計画は一度定めたものをそのまま進める必要はなく、随時改定も認められている。小浜線減便については、市町等で乗って残す運動を進めるということで、昨日の小浜線利用促進協議会でも新たな取組みを検討されていると思うので、新たな取組みについては網計画にも反映するような仕組みを構築していただきたい。計画に掲載することで、沿線自治体・事業者としても様々な取組みをしているというPRにもなる。

川本会長

- ・重要な時期に差し掛かっていることは間違いなく、新たなことも始まろうとしている。コロナもあるが、必ず元に戻る。これまで以上に公共交通を使っただけのよう備えていかなければならない。計画を粛々と進めるだけでなく、柔軟な見直しについてもこの場で協議できれば良いと思う。

6 閉会